

福の里 グループホーム結

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	皆で意見を出し合い、理念作成しました。「自由な生活」の支援を作成する。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつも、見える所に貼り、同じ思いで取り組める様、工夫している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を年に1～2度設け意見を聞くと共に理解してもらえる様に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶を行い、時には声掛け、行事参加もして頂いている。認知症という事も管理者が話をし理解してもらっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度より自治会に参加し回覧板を回したり行事等で幼稚園や地域の方々による催し物を皆さん楽しまれている。	○	地域の方々とも定期的に活動が出来る場を増やして行きたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	AEDを設置している。週2回のゴミ捨ての日にゴミ置き場の清掃を行っている。	○	緊急時の勉強会などを開き全職員が把握できる様にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価して頂いた事を素直に聞き、会議で話し合い改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度行い、又、意見を頂き取り入れている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	行政の方などと情報交換が出来る機会を作って行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	資料を回覧し、今までの対応、これからの対応を考えられるよう努めている。	○	勉強会を増やしていく。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は本人、家族に文章で示しその上で説明を行っている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情については家族と話し合い解決に努めている。それらを今後生かせるよう努力している。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の生活状況を月に1度「福の里便り」と題し、手紙を出している。	○	今後も継続して行く。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度～2度、家族会議を開き意見を聞いている。話やすくなる雰囲気を作る様に心掛けている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や各営業所ごとの勉強会で職員からの意見を聞く機会を設けている。	○	職員の提案や意見なども参考にしながら今後検討して行きたい。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度話し合いをして勤務調整を行っている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安がない様に出来る限りの異動、離職がない様に努力している。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用の際は、面接時にチームケア・協調性の大切さを話している。性別・年齢が採用の判断基準にはなっていない。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	会議等で話をしている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加やホーム内での研修を定期的に行っている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加で他事業所や同業者と話す機会を作りサービスの向上に努めている。	○	他事業所との交流を増やし情報交換など行いサービスの質の向上を計りたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員同士の親睦会を開いたりしている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来るだけ職員と話をする機会を作り、向上心を持って働けるように努めている。	○	職員の意見を聞く時間を増やして行きたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安、不穏を訴えて来られた際には、職員は作業を一端中止して訴えを傾聴し少しでも不安を取り除けるよう努力している。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学に来られた際、施設内を見て頂いた上で家族の不安・希望を伺っている。		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望であっても、利用者の体調・状況に合わせ他施設の紹介やデイサービスの利用等を勧める事もある。		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	長期プランの中で利用者の不安を取り除けるよう職員の声かけや対応を担当者会議を設け全職員が同じ対応が出来る様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時に、利用者様から教えて頂く機会を、日々の生活の中でもうけている。	○	

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も行事に参加して頂いている。	○	今後も行事参加の声かけ等行い一緒に支援出来る様努めたい。(ぶどう狩り、みかん狩りなど)
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時には一緒に自室にて自由に過ごして頂いている。家族の宿泊も受け入れている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	年賀状や手紙等出して頂いている。又、面接に来られる方もおられ利用者様も大変喜ばれている。	○	年賀状など出来るだけ自筆で出せる様支援しているので今後も続けて行きたい。
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いが支援、援助している場面が日々の中であがえて		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ転居した利用者に会いに行ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なケアプランの見直しで毎日の生活に張りを出す工夫を行っている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の他サービス利用内容や生活歴など、本人または他者からの情報集めに努めている。	○	コミュニケーションを今以上にはかり利用者の生活歴などもっと知る様にしたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日1日、1週間、1ヶ月と利用者様の状態を観察し、その時の状態・状況に合った介助が出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なケアプランの見直しで担当者会議を開き、必要なケアがあればかかりつけの医師や看護師からの指導を受け家族に同志を求めている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なプランの見直しとともに、その時の利用者様に合ったケアが出来るようスタッフ同士の情報交換・共有に努めている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夕方・夜間と1日を通し、個別の支援経過を記録している。ケアの内容・方法・待受時の対応方法などを記録に残し翌日の介助に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者又は家族の状況に応じ、サービス内容を説明し、支援している。	○	併設しているデイサービスを利用しながら入居を待ちたいという要望が増えてきている。今後も柔軟な対策を考えて行きたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	会議や行事等に参加し、顔見知りになることから災害時等の協力をお願いしている。	○	今後も、地域の方とのコミュニケーションを大切にしていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協議会や研修等に参加する事で、他事業所との交流・情報交換を行っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を行い、地域包括支援センターの方にも出席して頂き、当グループホーム利用者の状況を知ってもらう事で協力をお願いしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHのかかりつけHPもあるが、入所前に受診されていたHPをそのまま受診されている方もいる。本人、F aの希望を尊重している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ病院の医師への受診、相談を行っている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ病院の看護師との電話相談やグループホームの看護師との情報交換で日常の健康管理に努めている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、定期的な面会、又、病院との情報交換を行い、1日でも早く退院できる方向へ相談を行っている。退院後のケアについてなど。		
49	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病気や状態の情報交換、終末期の対応については入所される時、家族会議等で家族の意見を聞き対応出来る様努力している。	○	グループホーム職員、家族が、もう少し話しの出来る機会を設ける事が出来、終末期に対しての家族の思いや、どのようにすごしたらよいかを聞いていきたい。
50	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病院・医師への相談。グループホーム内で終末期を迎える事により出来ないことが問題に上がり市や病院への相談・協力を仰ぎ行っている。	○	もう少し、病院・グループホームが蜜に連絡を取れる関係になれると良いと思う。
51	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の事業所への情報提供。生活状態・体調・服薬・受診状況など	○	その後も、面会等を通じて関係を継続して行きたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としての尊敬の意を持って接する事を心掛けている。又、グループホームで得た情報は、持ち帰らず、外部へもらさない。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	どんなに小さい事でも自己決定できるように工夫している。	○	職員1人1人が同じ気持ちでケア出来る様にもっと取り組んで行きたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースをみださない様、心がけている。 (1人1人ペースが全く違うので)。	○	もっと、職員が心にゆとりを持って、一緒に過ごし、より良いケアが出来る様にしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員が定期的に散髪を行っているが、本人様より希望があればすぐに対応する様心掛けている。毎日の身だしなみは、自立の方はもちろん、介助が必要な方にも支援できている。	○	パーマ・カラーなど今後希望される方も考慮しその時には、他職との協力を得て行って行きたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の1つとして、食事作りや、おやつ作り、又、その際のメニューなど利用者様の希望を少しずつ取り入れている。昼食後のお茶碗拭きを利用者に手伝ってもらっている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は、喫煙される方はいないが、嗜好品を拒む事はない。牛乳希望の方は毎日の日課になっている。年に1,2度飲酒出来る企画(正月)を作っている。本人持ちのおやつも管理し提供している。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、1人1人のパターン把握。又、失禁を防ぐよう、定期的な声かけを行っている。	○	個人に合わせた言葉かけ。まわりに気使った声かけ(大きさ)を注意して行きたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回入浴出来る様に支援しているが本人希望があれば毎日でも出来る様にしている。又、季節に応じたの菖蒲湯や柚子湯など楽しめる工夫もしている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に眠って頂くのではなく、本人より「寝よう」、「休もう」等の言葉が出るまで他利用者様と過ごして頂いている。1人1人のパターンに合わせている。午後より臥床時間をとって頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や職歴などを聞き出しケアの中に取り入れられるよう工夫している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前に泥棒の不穏訴えあった為、お金は所持していない。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時など、散歩の声かけ、又、本人より外出散歩の希望あれば出来るだけ対応出来るように心がけている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員での外出の際には、家族にも声をかけ一緒に出かけられるよう支援している。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙、個人の意志でやりとりをされている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間に決まりはなく、面会時には自室にて、プライベートな時間をゆっくりと過ごして頂いてる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はいっさい行っていない。会議等で職員全員が理解でき充分に取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関ドア、日中はカギをかけず開けていてオープンなグループホーム作りができています。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	担当職員を決め安全に生活して頂けるよう見守りしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や体に害を及ぼす危険のある物は手の届かない場所に置き誤薬等はあってはいけない為、職員が管理している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に会議、研修を行い、防止に努めている。火災についても消防訓練を行い消防団の方からの指導を受けている。	○	今後も勉強会を通し事故防止に取り組んで行きたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、対応出来るようにしている。また、会議等でも看護師から応急処置方法の指導を受けている。	○	緊急時における「訓練をもっと取り組んで行きたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行っている。地域の消防分団の方々と連携をとり火災時に備えている。	○	地域の方々との交流を増やし災害時などには消防分団の方以外にも協力を得られるようにしていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会を開き、今後の事について、又、どのように過ごしてほしいか等、話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変あった場合は直ちに報告し職員全員が把握できるように努めている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬マニュアル、服薬マニュアルを作成し服薬管理を行っている。看護師とも情報を共有し確認に努めている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人個人の便の状態、排便のペースを把握し、服薬、又は腹部のマッサージ等、工夫を行っている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時毎食後、口腔ケアを声かけにて行っている。義歯の手入れうがい等利用者の力に応じた支援をしている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事チェック表に利用者1人1人の摂取量を記入する様になっているので職員全員がチェック表を見て把握できる様になっている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防マニュアル等、全員が対応等わかるように努めている。インフルエンザは利用者全員が予防接種を受けている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、夕食後には、食器類を熱湯消毒している。	○	衛生管理の重要性について知識を伸ばしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に置物やポスター等貼り明るい雰囲気が出る様にしていく。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事等のポスターを貼ったり、廊下には写真など飾るなどしている。	○	家族の方など来られた際には写真を見て喜ばれたりされている。今後も職員全員でより良い環境を作って行きたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や和室、思い思い過ごされるよう心がけている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで頂いている。居室には利用者が使用していた家具や布団など持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。中には昔の写真や小説、仏壇など持って来られている方もいる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気に入れ替えや空気清浄など、定期的に行っている。冷暖房は冷やしすぎや暖めすぎがない様に適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにし、段差をなくしたり、手すりを設置して安全に過ごして頂けるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時に、スタッフが利用者様から教わる機会を作り、状態維持に努めている。又、各居室に表札を飾るなどしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周にスロープを作り、安全に歩行出来るよう、又、車イスでも外出しやすいようにしている。デッキには季節の花や野菜を栽培し利用者様に楽しんでもらっている。		

福の里 グループホーム結

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

福の里 グループホーム結

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年々高齢化と共に重度化していく中でも季節の野菜や花や自然の空気に触れてもらえる様に外にも出る回数を増やしていきたいです。利用者の要望・希望により応えられるように支援していくと共に、出来ることはしてもらい出来ない事へのお手伝いを心がけています。